

# 第8回科学の甲子園全国大会出場

期 日：3月15日（金）～3月18日（月）

場 所：ソニックシティーホール

サイデン化学アリーナ（埼玉県さいたま市）

参加者：鷹栖光希(24H)、長井颯祐(26H)、中村 駿(26H)、  
吉村駿人(26H)、青木太志(27H)、中村太海(27H)、  
伊東岬輝(16H)、室谷顕玖(17H)

指導者：山下卓弥・岡本直樹教諭



私たち8名は、富山県代表として第8回科学の甲子園に出場しました。科学の甲子園とは、各都道府県から予選を勝ち抜いた47校の代表生徒が、筆記競技と事前公開競技を含む3つの実技競技を行い、それらの競技の合計点によって科学の力を競う大会であり、同時に全国からたくさんの科学好きが集まる場でもあります。



初日は、開会式の直後に、筆記競技が行われました。筆記競技では、物理、化学、生物、地学、情報、数学のそれぞれの分野から2問ずつ、合計12問の問題が出題され、それらをチームメンバーのうちの6人で分担し、時には相談しながら解き進めました。学校ではまだ扱われていない内容や、深い思考力を問われる難問が多くて苦戦しましたが、なんとかチームで協力しながら解くことができました。

2日目は、最初に実技競技①、続いて実技競技②が行われました。実技競技①は地学分野での出題、実技競技②は化学分野での出題でした。

どちらも大変難しい課題で短い制限時間の中でこなすのは大変でしたが、チーム内でしっかり話し合い、時間内に何をやるかの計画を立てながら競技に取り組み、よい結果を残すことができました。

2日目の最後には、事前公開競技「ツール・ド・さいたま」が行われました。この競技は、60cmほどのサイズの二輪車を作成し、ジャイロによってそれを安定させ、その二輪車を使って30mのコースでレースを行うというものです。これは、大会の1か月半ほど前にルールが発表され、各校で準備を進め、本番でその成果を出し合うという、科学の甲子園の花形競技です。2月の上旬にルールが発表されてから、私たちは休日を返上して準備にいそしんできました。時には意見が対立することもありましたが、何とかチーム全員が納得するような機体を作成することができました。そして本番、制限時間60分の中で、練習中に作ったものよりも優れた機体を作り上げ、30mのコースを完走させ、大きな達成感を得ることができました。しかし、結果は48チーム中17位とあまり振るわず、全国の学校のレベルの高さを痛感することになりました。



最初に書いたように、この大会は全国から科学が大好きな高校生が集結する場であり、我々富山県代表チームも他校の生徒たちとの交流を楽しむことができました。交流した中には、様々な分野で全国大会に出場し活躍する生徒や、私たちよりもはるかに科学のことに詳しい生徒もいて、大変多くの刺激を受けました。このことで、今後もっと科学を学びたい、研究を深めたいという気持ちを高めることができましたように思います。

科学の甲子園に参加した4日間は、私たち代表チームのメンバー8名にとって、大変実りのある時間になりました。今回の学びを将来に生かすことができるよう、日々の努力を忘れないようにしていこうと思います。